

2023年1月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営[®]」コラム第96回

＜描いた未来から俯瞰する＞

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

「一年の計は元旦にあり」「一日の計は朝にあり」という言葉には、物事は最初が肝心で、思いを実現するためには行動計画を立て、計画に沿ってたゆまぬ努力を続けていくなれば、思い描いた道は拓けていくことが示唆されています。

企業経営の場合、ビジョンの実現に向けて行動計画は欠かせませんが、その内容が非常に重要になってきます。元旦は決算月に向けた通過点であっても、元旦という区切りの良い時には、自我を離れて冷静に経営の原点に立ち、自社の存在意義や、強み・弱み等を再確認する絶好の機会になります。

現在とは無限の過去と無限の未来が衝突しているなかで生まれているとする量子科学の宇宙理論に沿うと、企業という小宇宙の現在とは今迄歩んできた道と、ビジョン実現への道が衝突しているなかで生れているとも解釈できます。

この現在から未来に向けて歩む道の選択肢は多岐にわたりますが、描いた未来から現在を俯瞰すると、歩むべき道として絞られてくるはずです。今年も世界経済は大きな変動が予想され、市場開発に向けた新商品や新サービスなどの分野は、時代を貫いて継続すべき改善活動や未来を担う人財の発掘・育成などと共に、行動計画から外せない重要ポイントとなるのではないのでしょうか。

年頭にあたり、夢をかたちにできる道を再確認し、この価値を全社で共有しながら、今年卯（うさぎ）年でもあり、縁起を担（かつ）いで行動飛躍の年としたいものです。本年も昨年同様ご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

＜アクションプランを作成する＞

経営者は実践者である。彼らは実行する。行動する前には、自分が進むべき針路を計画しなければならない。望むべき成果、予想される制約事項、将来における軌道修正、チェックを入れるタイミング、時間について考える必要がある。

～途中略～

アクションプランは経営者の時間管理の土台となるべきである。時間は、経営者の最も希少かつ貴重な資源である。政府機関であろうと、企業や非営利団体であろうと、組織というものは本質的に時間を浪費する。経営者が自分の時間配分を決められないようでは、アクションプランは画餅にすぎない。

— 出典：「HBR 寄稿論文」P.F. ドラッカー著—